

テーマ 循環器疾患 平成25年度漢方医学講座・臨床講座

循環器疾患に対する 漢方治療

日本大学医学部内科学系総合内科・総合診療医学分野

矢久保 修嗣

(平成26年1月19日収録)

1. はじめに

漢方治療は、消化器疾患、呼吸器疾患、婦人科疾患に多く適応されている。一方、循環器疾患に対する漢方治療の報告は多くはない。ここでは、心不全、高血圧、不整脈という循環器疾患に関する漢方治療を紹介する。

2. 心不全に対する漢方治療

(1) はじめに

心不全は水毒、加齢性変化などの漢方医学的な病態が考えられる(図1)。水毒から、木防己湯や苓甘姜味辛夏仁湯が治療方剤として考えられる。これに加えて、加齢性変化からは牛車腎気丸を紹介したい。

臨床では、心不全の評価はI度～IV度のNYHA分類が使用されている。最近では、血清brain natriuretic peptide(BNP)濃度計測による心不全の評価がある。BNPは1998年に発見されたもので、心室が分泌するホルモンである。BNPは血管拡張作用、利尿作用などあり、心不全を軽減することが必要な時に心室から分泌されることから、血清BNP濃度を測定することで心不全の評価が可能であると考えられる¹⁾。現在では、心不全の急性増悪の評価に保険でも使用することが可能となっている。

正常では血清BNP濃度は50pg/mL未満である。安静でも心不全症状が

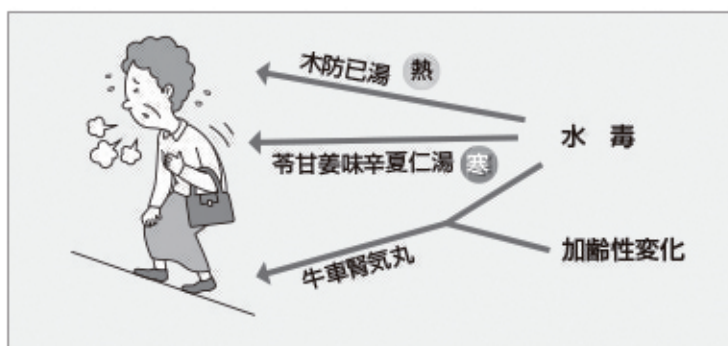


図1 心不全に対するKAMPO Approach

出現するNYHA分類IV度では、血清BNP濃度が500～600pg/mL。少し動いただけでも心不全症状が出現するIII度では、血清BNP濃度が300pg/mL。日常動作で心不全症状が出現するのはII度で、血清BNP濃度が200pg/mL。心臓病があるが心不全症状が出現しないI度では、血清BNP濃度が100pg/mL未満である。

(2) 心不全に木防已湯を使用した症例

血清BNP濃度と心不全症状の変化に関して、木防已湯の症例を紹介する²⁾。木防已湯は「金匱要略」痰飲咳嗽病篇に記載のあるもので、虚実中間証、あるいはそれ以上で、みぞおちがつかえ、血色優れないものの動悸、息切れ、浮腫に使用されている³⁾。

【木防已湯】

■構成：防已2.4～4、石膏6.4～12、桂皮1.6～4、人参2～4

■出典：『金匱要略』痰飲咳嗽病篇

胸水貯留がある場合や、息切れと呼吸困難、心下痞堅、顔色が黒っぽい、脈沈緊の症状がみられる。発病から数十日が経過し、医者か吐剤や下剤を与えても癒えないときには、木防已湯で治療する。虚証の人はすぐに治るが、実証の人は三日で再発する。